

D-1 各教科等との関連付けを図る実践例

AさんとBさんのグループは、国語科の日本語に関するいろいろな課題を考えたときに、日本語の漢字・ひらがな・カタカナの併用表記に興味をもって調べ学習を行った。その折りに、表音文字と表意文字の併用される言語が世界的に珍しく日本語と韓国語がそうであることを知ったことがきっかけで、日本語の表音文字に似た韓国のハングル文字について関心を持つこととなった。ここでは、国語科の第3学年の単元「日本語を考えよう」が生かされる形となった。

＜「ハングル文字について」に取り組んだグループの活動の流れ＞

活 動	教科との関連／本校で付けたい力との関連	個に応じた指導・支援の工夫
(STEP 1) 方向性を決める段階 ○韓国語に関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深める。(国語) ・コミュニケーションを図ろうとする。(外国語) ・異なる文化や行動様式を理解する。(外国語) 	具体的な課題に絞り込めていないので、既習の教科学習や体験活動の中で、さらに調査してみたいと思ったことはないかを振り返らせた。
(STEP 2) 課題を決定する段階 ○文字の組み立てに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字とローマ字との比較分析により規則性を見つける。(理科) ・分類、弁別することができる。(数学) 	気づいたことを羅列するなど漠然とした状態にあったので、比較・関連づけの視点で自分の気づきをまとめることができないかを指導した。
(STEP 3) 課題を追究する段階 ○母音・子音の一覧表にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・整理する力を身につける。(本校の付けたい力：情報から応用するなど自分なりの課題解決策を追究する。) 	規則性の発見を文章にのみ表現していたため、よりわかりやすく説明するための工夫ができないかを指導した。
(STEP 4) 可能性を広げる段階 ○紙芝居にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を考える。(国語) ・文字の大きさや絵のバランスを考える(美術) 	STEP 3が終了した段階で活動が停滞したため作成したものを生かして活動が活発化できるよう可能性を広げる支援を行った。
(STEP 5) 深める段階 ○読み聞かせ。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめ論理的に書き表す能力を身につけ、他者にわかりやすく伝えようとする態度を育てる。(国語) ・人と関わる力を身につける。(本校の付けたい力：自分自身とのつながりを探り、自分の生き方を考える。) 	単調な活動に終始しないようにと調査結果の発表や紙芝居の読み聞かせをわかりやすく行うための工夫ができないかを指導した。